中央大学・産経新聞社寄附講座（グローバル・コンパス）の紹介

グローバル化時代の大海原を航海する「羅針盤」を手に入れよう

産経新聞社寄附講座担当コーディネーター　高橋豊治（商学部教授）

中央大学は、産経新聞社からの寄附により「グローバル・コンパス～未来への羅針盤」という全体のテーマで、平成26年度に中央大学・産経新聞社寄附講座を開講しました。グローバルな時代に活躍する魅力ある各界のトップ・リーダーとして活躍されている方々を講師に迎え、リーダーを支える価値とは何かをトップ・リーダーたちの経験から学ぶとともに、自らのキャリア形成の指針とする、いわばグローバル化時代の大海原を航海する「羅針盤」を手に入れることを目的としたものです。この講座は、商学部・経済学部が中心となって担当し、すべて学部の学生が履修できる講座（正規の授業）です。昨年の講座も大好評のうちに終了し、本年度（平成27年度）も、4月16日（木）より毎週木曜日5時限16:40～18:10に、春学期（前期）総合講座（グローバルコンパス2）・秋学期（後期）総合講座（グローバルコンパス3）として、さらにパワーアップして展開することが決定しています。そこで、今回は本年度の予告を兼ねて、昨年度春学期（前期）の講義を紹介したいと思います。

昨年度春学期（前期）は4月23日に講義を開始、7月23日に終了し、翌24日には中央大学駿河台記念館に講師陣をお招きし、優秀なレポートを作成した学生による「講師を囲む集い」を開催しました。春学期（前期）14名の講師の方々の講義テーマは、学生たちへのメッセージの観点から整理すると、国際関係、文化・エンターテインメント、ファイナンス、企業家精神という4種類でした。

高村正彦氏

国際関係を論じたのは3名の本学卒業の講師の方々、高村正彦自由民主党副総裁（衆議院議員）、北原巖男日本東ティモール協会会長（元駐東ティモール日本大使）、瀬谷ルミ子日本紛争予防センター理事長でした。いずれも共通するのは、「“まっすぐな”強い思い」でした。高村副総裁には、4月23日（水）アメリカ合衆国オバマ大統領の来日当日という、とても忙しい日程を縫って多摩キャンパスへ来校・講演いただきました。幼少時の経験から戦争の悲惨さを知っているからこそ、政治家の最も大切な使命は国の平和を守ることであるという強い信念のもと、平和を守る政治家として何をすべきかを常に考え行動していることをお話しいただきました。「新聞をよく読む習慣と、新聞を頭から信じない習慣を身につけてください」というメッセージもいただいています。東ティモールに「ポート・キタハラ」という名前の港があるのをご存知ですか。その「キタハラ」とは他ならぬ、北原会長のことです。北原会長からは、21世紀最初の独立国である東ティモールのグスマン首相からの中大生への英文メッセージも紹介いただきながら講演いただきました。国の発展の裏にある歴史を学ぶとともに、「思無邪（おもいよこしま

なし）」という“まっすぐな”心で、自分に自信を持って行動することの大切さをお教えいただきました。瀬谷理事長は、著書のタイトルをお借りすれば『職業は武装解除』として世界的に注目されている方です。現在、南スーダン、ソマリア、ケニアなど紛争地に展開する現地事務所と、現場での平和構築事業を統括していらっしゃいます。瀬谷理事長からは、進路に迷っていた高校3年の時、新聞に掲載されたルワンダ大虐殺の写真を見て「紛争地のために何かをしたい」と強く思ったことが今の行動を支えていることを紹介いただきました。

文化・エンターテインメントのグローバル性とローカライズの重要性を論じたのは、涂善祥氏（中国琵琶奏者）、加藤登紀子氏（歌手）、北川直樹氏（ソニー・ミュージックエンタテインメント代表取締役コーポレイト・エグゼクティブCEO）、佐竹力総氏（株式会社美濃吉代表取締役社長）、ポール・キャンドランド氏（ウォルト・ディズニージャパン株式会社代表取締役社長）でした。涂氏からは、音楽はグローバルな言葉であり、琵琶で心と心の交流をというメッセージを、実際の中国琵琶の演奏を通じて講演いただきました。また、お嬢さんで声楽家の櫻さんとともに、中央大学校歌「草のみどり」の演奏というプレゼントもありました。加藤氏からは、音楽のグローバル性と文化と民族間の難しさを、音楽を通じ各国との交流を行ってきた体験を交えて、映像とともに紹介いただきました。北川氏からは、お金儲けだけ考えるのでなく音楽を愛しているからこそ生まれるローカライズしたサービス、いろいろな人の才能をリスペクトして生かし、志高く、愛を持って、世界に紹介することがエンターテインメントビジネスの重要な点であること、日本がそうであるように、各国独自の文化を踏まえた、グローバルな視点が大切なことを教えていただきました。佐竹氏からは、江戸時代・享保元年（1716年）創業の美濃吉の「食を通じ日本文化を創造」を基本コンセプトに、世界遺産に登録された和食と日本文化の凝縮である料亭に見る「食とおもてなし」の文化についてお話しいただきました。キャンドランド氏からは、ディズニーの伝えるものを例に、チャンスに備える準備と、チャンスをつかむ勇気の大切さ。歩きやすい道よりも険しい道の方が自分を成長させてくれる。大学時代は、自分を成長させる大切な時間であることをお話しいただきました。また、日本独自のビジネス展開についても紹介いただいています。

熊坂隆光氏

ファイナンスをテーマにしたのは、森口隆宏氏（JPモルガン証券代表取締役会長）、藤沼亜起氏（中央大学専門職大学院戦略経営研究科特任教授）、サシン・N・シャー氏（メットライフ生命保険代表執行役会長社長最高経営責任者）でした。森口氏からは、グローバルな金融機関での経験から、グローバルな視点を持つ大切さ、自分の座標を常に確認し、何を知っているかではなく、何を知らないかを知ることの大切さを学ぶとともに、各国の文化的な背景も含めたビジネス展開の特徴を学びました。藤沼氏からは、元国際会計士連盟会長、元日本公認会計士協会会長として、経済のグローバル化に焦点を当てて、会計＝アカウンタビリティの重要性を学びました。経済のグローバル化に伴い、世界共通の説明責任が求められてきていること、それに対応するのがビジネスとして大切であることを強調いただきました。シャー氏からは、保険商品にとって何よりも大切なのは、メットライフ生命の“Get Met, it pays.”というフレーズに端的に表される、信頼であること。そして、必要とされているものを提供することの大切さであることを講義いただきました。また、日本で求められている信頼について、どのように応えるかをTVCMの映像を例に説明いただきました。

企業家精神を論じたのは、橋本政昭氏（橋本総業株式会社代表取締役社長）、菊池武恭氏（WPCコーポレーション株式会社代表取締役）、吉田浩一郎氏（株式会社クラウドワークス代表取締役社長）でした。そこで強調されたのは、自分たちの強みを貫くことの大切さでした。橋本氏からは、創業124年の老舗商社に息づく企業家精神を、顧客サービスに

中央大学・産経新聞社寄附講座（グローバル・コンパス）の紹介

どのように取り組んできたかの紹介を通じてお話しいただきました。菊池氏からは、“ものづくりの環境ベンチャー”で「持続可能な社会の構築」の経営理念にかんして講義いただきました。WPC（wood plastic composite）という社名に示される通り、Wood:廃材とplastic:廃プラスティックをもとに製造されるcomposite:木材プラスティック再生複合材という製品を提供するということを通じて、ただ単に「環境にやさしい」製品を提供するのではなく、ビジネスとして展開することで、持続可能なものとして展開することができることを学びました。吉田氏からは、ITのもたらすグローバルで新しい世界のもとで、どのような世界が展開されているかを紹介いただくとともに、自らの方向性を見極める必要性を講義いただき、7月23日春学期（前期）の講義を終了しました。

春学期（前期）の締めくくりと、秋学期（後期）へ向けての展開のため、7月24日には中央大学駿河台記念館に講師陣をお招きし、優秀なレポートを作成した学生による「講師を囲む集い」を開催しました。福原紀彦学長（当時）の挨拶に始まり、熊坂隆光産経新聞社長のスピーチ、

北原巖男氏

高村正彦先生による乾杯の発声の後、涂善祥氏の中国琵琶の演奏により全員で校歌を斉唱、和やかなムードの中で始まりました。学生を代表して南谷盛志さん（商学部4年）、大藤真里奈さん（商学部1年）の二人から春学期の講義への感謝と秋学期への講義の期待を込めて感謝のスピーチをしてもらいました。懇談に入ると、授業中に質問しきれなかったことなど直接講師の方に聞くまたとない機会です。また、秋学期（後期）の講師陣にも参加いただいていますので授業への期待を直接話す学生も少なくなく、あちこちで講師を囲む学生の輪ができました。講師のみなさんも、熱い学生たちの思いに丁寧に応えていました。最後に、総合コーディネーターの酒井正三郎先生（現学長）からも産経新聞社と講師の方への感謝のスピーチをいただきました。

中央大学は司法試験や公認会計士試験などで圧倒的な強さを誇ってきましたが、この“中大パワー”は、どちらかといえば、グローバルとは対極のイメージで語られることが少なくありませんでした。しかしながら、実際には、明治18（1885）年「英吉利（イギリス）法律学校」として「實地應用ノ素ヲ養フ」という建学の精神のもと創設されたことからも分かるように、創立当初からグローバルな教育を目指しています。学生たちに、こうした中央大学のDNAを再認識してもらうとともに、講義内容を自らのキャリア形成に生かしてもらおうというこの講座の試みは、本年度もよりパワーアップして続きます。日本を代表する各界のトップが、次々と多摩キャンパスに来校・講演くださいます。学生にとって、将来のキャリアを考えるために、とても魅力的な講座ですので、可能な限り、すべての学生に履修してほしいと考えております。

●

この講義、総合講座（グローバルコンパス2）、総合講座（グローバルコンパス3）の履修方法等詳細については、商学部事務室または所属学部事務室にご確認ください。

瀬谷ルミ子氏

講師を囲む集い

2015年度 産経新聞社寄附講座（商学部・経済学部共同開講）講師予定リスト

テ　ー　マ：グローバルコンパス～リーダーを支える価値とはなにか
前期・春学期：2015年4月16日～2015年7月23日
後期・秋学期：2015年9月24日～2016年1月21日
開　講　日：木曜日5限　16時40分～18時10分（於：中央大学多摩キャンパス8号館）
代　　表：酒井正三郎（中央大学総長・学長）
コーディネーター：高橋豊治（中央大学商学部教授）、瀧澤弘和（中央大学経済学部教授）、鳥居鉱太郎（中央大学経済学部准教授）

氏名（敬称略）	役　　職
新井　良亮	㈱ルミネ代表取締役社長
石塚　邦雄	㈱三越伊勢丹ホールディングス 代表取締役会長
太田　英昭	㈱フジメディアホールディングス代表取締役社長
門田　隆将	ジャーナリスト・小説家
上條　　努	サッポロホールディングス㈱代表取締役社長兼グループCEO
河邉　哲司	久原本家 茅乃舎（かやのや）社主
菊池　武恭	WPCコーポレーション㈱代表取締役
北川　直樹	㈱ソニー・ミュージックエンターテインメントCEO
北原　巖男	日本東ティモール協会会長（元駐東ティモール日本大使）
熊坂　隆光	㈱産経新聞社代表取締役社長
黒坂登志明	ポルシェジャパン㈱会長
高村　正彦	自民党副総裁、衆議院議員
齋藤　安弘	パーソナリティ　元ニッポン放送アナウンサー
佐々木吉夫	福さ屋㈱代表取締役社長
佐竹　力総	㈱美濃吉代表取締役社長
鈴木　　修	スズキ㈱代表取締役会長兼社長
鈴木　敏文	㈱セブン&アイ・ホールディングス代表取締役会長　最高経営責任者（CEO）
涂　　善祥	琵琶奏者
鳥居　邦夫	㈱鳥居食情報調節研究所代表　元味の素イノベーション研究所首席理事
永井　浩二	野村ホールディングス㈱代表執行役・グループCEO、野村證券㈱取締役兼代表執行役社長
永井多恵子	公益社団法人国際演劇協会会長　元NHK副会長
中川　　敬	東宝㈱専務取締役
永瀬　昭幸	㈱ナガセ代表取締役社長
中本　祥一	㈱電通副社長 取締役専務執行役員
根津　公一	㈱東武百貨店取締役会長
深堀　勝博	ゼリア新薬工業㈱取締役
藤重　貞慶	ライオン㈱代表取締役会長
森口　隆宏	JPモルガン証券㈱代表取締役会長
山田　法胤	法相宗大本山　薬師寺　管主
横山　敬一	味の素ゼネラルフーヅ㈱代表取締役社長